

令和3年度ワクワク特別授業を実施しました

11月22日（月）に、中川直美先生をお招きして、以下のとおり特別授業を実施しました。

1. 目的

敬愛の精神や他者とのコミュニケーションにおいて大切にすべきこと等について理解を深めるとともに、ふるさとや地域社会に貢献できる人となるために必要なことについて考える契機とする。

2. 概要

- (1) 日時 令和3年11月22日（月）10:40～12:05（質疑応答を含む）
- (2) 場所 本校第1体育館
- (3) 講師 中川 直美 氏
（元宮内庁病院看護師長、小笠原流礼法師範、和文化教養塾 y a w a r a g i 主宰）
- (4) 演題 「今こそ大切にしよう日本の文化と心」
- (5) 対象 高志中学校全校生徒

3. 内容

- 看護師として福井赤十字病院に勤務していたところ、1988年に宮内庁に派遣されました。宮内庁皇太后宮職医務係として勤めた後、2001年からは宮内庁病院看護師長兼東宮職医務係として勤務、愛子様の養育を担当しました。2011年からは三笠宮家侍女長補佐として勤務しました。現在は、日本古来の礼儀作法を通して思いやりの心を伝える傍ら、看護大学において後進の育成等に携わっています。
- 「礼儀作法とは何か？」との問いに、生徒から「相手を不快にさせない振る舞い」「TPOに合わせた行動」「相手を思いやる行動」などの回答がありました。日本の礼儀作法は武士の社会から生まれたもので、鎌倉時代から今に伝わるものです。「己の欲せざるところは人に施すなかれ」の考え方です。
- 座位、立位、立礼（会釈・敬礼・最敬礼）の実技指導
- 人から見て美しい形は、心を表し相手に伝えるものです。「礼三息」と言って、礼をするときは息を吸いながら状態を倒し、その状態で息を吐き切り、息を吸いながら状態を起こすようにすると、間（ゆとり）が生まれます。「残心」（相手に心を残す動作をすること）で、その場に深みが生れます。「言葉が先、動作が後」を心がけることも大切なポイントです。
- 日常生活における所作、例えば部屋の出入り、人の家での行動、靴の脱ぎ方や目上の人への礼儀について、見直してみましょう。
- 美しい日本語も大切です。言葉が持つ霊力によって、幸せがもたらされたり傷付けられたりするからです。挨拶の「挨拶」は「心を開くこと」、「挨拶」は「その心に近づくこと」という意味です。挨拶できないことは、挨拶するとき「恥ずかしい」「照れくさい」と感じることの何倍も恥ずかしいことです。
- 「ありがとう」はそのことが当然ではない、当たり前ではないという感謝を表す言葉です。この言葉を大切にしていきましょう。



4. 質疑応答

生徒から、「小笠原流以外の流派にはどのようなものがあるのか」「リモート会議など社会の変化によって新しく生まれる礼儀はあるのか」「他者との関係ばかり気遣っていると苦しくならないか」「宮内庁勤務時代に最もつらかったことは何か」「看護師の仕事と礼儀作法がどのように関連するのか」など、たくさんの質問が出され、中川先生には丁寧に回答していただきました。

